伊香保
温泉
入浴法幼童論
完

明治十三年八月

發賣所　小林堂

K295.1
J08

入浴法幼童諭端書

良將英士戰鬪とひらくの際先地の理と探り而して後に戰ふ去れば百戰百勝たり旅客温泉に浴せるも亦同じ初て温泉に浴する人宜入浴の法と固守らば其功尤も著明く年經りし病痾も全癒せ身躰壯健あれば壽福無量なる事印紙とつて記者保証を斯る奇効を奏する温泉も其法と知らぜ去て慢りに浴さ心時間と旅費と畫餅とかし治すべき病よ一生苦しむ尙地の理に闇くして戰爭よ敗そるが如し其浴法と稱そるものゝ當縣廳より達せられたる第百貳號(明治九年六月二十七日)の布告よして浴客心得ぜんば有る可からぜ爰に小林の主人右布告と和解し童幼にも續やそがらしめ入浴法と弘めんと迂生よ詫

さに前件を以てす嗚呼小林の主人も温泉に尽力の者あるを

誌

同所元温泉笠亭主人

篠田仙果誌

入浴法効童諭

○夫湯治を爲んと欲する人ハ泉質の病症ヨ應じて治る温泉と求め浴法と執守ば速ろヨ平癒あすハ勿論あれども又他に醫療の力を補助るものあり温泉の湧出る塲所ハ地形高く多く山谷より雲露起る間ヨ居り常ヨ清く涼ゑき空氣に富み不潔たる氣無けれゑ流行病更に無く且凡俗の煩雑と脱るゝヨ困て治療の一大補益と成る(伊香保ハ海ヨ隔るもゑヨ鮮魚少あし是旅客の爲ヨ不便ヨ似たれゑ天然の幸福あり夫の故ハ鮮魚ヨ富めば酒と過し暴食とあし爲に病と生ぜるの憂ひあれはあり)温泉に入浴の群客朝夕よく注意ぜんゑ有るべからぜ去れば第一ヨ飲食と節、制み心思に淡泊を忘れ常に座右と清潔ヨして温泉醫治本眞の目途に

達せん事と要けべし因て入浴、心得の大意と陳述ん

○浴泉の温度ハ大抵華氏の寒暖計九十八度より百度と適宜とす若温泉度より熱過たるも常水と混て藥の氣と稀薄すべのらぜ本泉とよく放冷して適度んゑ至べし

○入浴數ハ老人ハ一日一度少壯なる者ハ一日三度と適度とすべし最も入浴時刻ハ朝夕とよしとす

但し漫りに此度を過す時ハ酒と飲み飯と食たる後にて直ゑ温泉に浴べのらぜ

○湯室と清らかゑ爲すハ湯亭の素より注意るハ勿論あれども浴室もまた此に注意湯室にて髪と洗ひ下帶あどと決して濯ぐべからぜ

○湯室まて高聲ゑ語とあし殊更小唄淨瑠理あどの騒がしきハ無用たるべし

但し客舍に有りても隣房等へ遠慮と用ひ養生の法に協ひ候やうゑ注意べし

伊香保温泉へ浴て應の有る病症

○年經き惡性の僂麻質私

○僂麻質私まて關節の痛む

○腰の痛み　○神經痛　○貧血症

○婦人月經不順　○鑛毒より起りたる麻痹

○皮膚病　○殊ゑ麻疹痘の後にて發したる頑癬

○本泉と服者ハ必ぜ分量と愼み猥りに服べからぜ本泉と服て宜病症ハ左の如し

○胸とり　○胸つゝへ　○食事不消化　○白血

○血の氣少き症　○月經不順

右の病ある者い一度に目方拾六匁より四拾八匁と朝夕空心よ服すべし尤も十六匁以上を服者い先十六匁丈と服て後少し計り運動し再び十六匁と服べし而服よざれば吐氣と催その憂ひあり慎むべし又服て後三十分時間と經ざれば食餌とそべからせ

○當所字湯本より湧出る温泉と分拆せしに温泉五合八夕餘より左の物量と含たり

鹽素　○、○三六四ガラム
硫酸　○、○八一五ガラム
硬度　十七度、三

（ガラム）とハ我國の二分五厘程あり

○伊香保畧記

往古、伊香保と稱し地い最も曠く榛名山も伊香保の分内よして遠く都よ聞えたる名所あり亦温泉ハ人皇十一代垂仁帝れ二年始て湧出せしより今よ連綿として奇効更に變ぜぜ殊よ永祿天正の年間よ繁昌他の温泉と等しぐら ぜ近世よ至り温泉の効驗海内に流布し恭くも明治十二年七月　皇太后宮　行啓あらせられしより別て温泉よ光輝と増し浴客病苦と忘るゝ者壹ケ年間數萬人に及べり

附曰近時浴客暑中い殊に多く來らるゝ故無據一室へ數人を入れ混雜甚しく下婢賭人も注意れと充分浴客の介抱行屆かぜ因て遊泳の諸君がたい四、五、六月頃來られかば浴亭も浴客も一層の便理あるべし

○同所雜記

○伊香保神社　當社ハ延喜式内に入りし古社ヨテ祭神ハ大汝命少彦名命あり縣社なるに因て毎歳九月十九日の祭禮ヨハ群馬縣の官吏出張あり

○物聞山　一名ト金毘羅山ともいふ山の頂上に金毘羅神ト祭る祠らあればあり此山ハ當國名所の内にして夫木集幽齋家集等ヨ歌あり且眺望しにハ伊香保第一等の地あり

○向山　紅葉の名所ヨして月雪の眺ヨ富み虫聞ヨ最上の地あり此所ヨ割烹店あり玉兎庵といヽ亦六勝亭と呼ぶ庭上の池にハ常ヨ鯉鰻鯰ト圍ひ客の需に應じて鹽梅ヲ尤佳味あり

○湯本　伊香保神社の坂下藥師堂の側より崖道ト行事六町計に去て湯元三社ト呼ぶ社あり亦石像不動尊岩上に安置せり共ヨ靈驗あり明治十三年記者仙果此所に一茶亭ト建て笠亭ト號く紅葉簇數柱あり川鹿常ヨ鳴き慈悲心鳥啼く此所より尚溪に添ふて行事二町程ヨして鑛泉湧き出づるあり

○仙窩の瀧　猿澤の上ヨありて水瀧ハ二段に落ち傍ヨ湯飛泉あり此瀧も仙果が意ト用ひて成れり

○關の古跡　伊香保町の下ヨあり舊政府の頃三國街道裏道關所の跡あり此所ヨも關屋ト呼ぶ割烹店あり池ヨ温泉ト引き鯉鮒鰻ト放去客の好みふ隨ひ即席ヨ料理し酒の興ト添も且つ同所ヨ氷室あり

○二ッ嶽の蒸湯　伊香保の町より西南ゝ當り行路三十餘町あり（近時湯本より近道と開くといふ）南あるゝ雌岳と
いひ北あるゝ雄岳と呼ぶ此山にハ藥草多く奇花ゝ霑む
る雅人ハ探り需るとぞ且麓ある平地に土室ゝ造り地ゝ
穿ちて蒸氣ゝ引き病者ゝ蒸ゝ諸病ゝ効あり

○榛名山　伊香保より行程三里程にゝて春名神社あり延
喜式内の古社ゝして宮殿の美麗言語ゝ演べたく樹木蒼
〻〻として奇巖眼を驚愕し實ゝ神居ますの地あり亦
行路ゝ伊香保沼同じく富士冠ぶ岳相馬ぶ岳摺臼岩あゝ
最も觀所多し伊香保温泉の遊客ハ是非一度駕ゝむくべ
きの地あり

○水澤觀世音　伊香保町より行程三十町といふ境内に元
享年間の古碑あれば開基の古きを思ふべし

○不入の龍　水澤より三十餘町にして舟尾山ゝの間にあ
り瀧巾五尺餘にて直下二十丈ありとぞ

○御蔭の松　澁川驛より伊香保へ登る半途にあり明治十
二年七月　皇太后宮　行啓の際此松の許に御野立あり
供奉せられし萬里小路博房卿の詠歌ゝよつて松も翠と
增しぬ樹下ゝ郷の御歌と縣令の文ゝ刻せし碑あり

御届

明治十三年八月十七日

定價三錢五厘

編輯兼出版人　東京神田區仲町壹丁目拾三番地　篠田仙果

發賣所　群馬縣下伊香保町　小林源次郎